

特産品の今治タオルに着目し、母親や女性の視点で開発した新商品が相次ぎ登場している。今治タオルの特長である長機織の肌触りを生かし、使いやすさや快適さにこだわったアイデアが好評だ。

女性の視点で新商品

子育てサポート事業化した「コンセプト」は、子どもを育てる「エルパティ」母親があっという間に「イオ（松山市）」は4月、思ふ商品。タオル販売店「今治極上」今治タオルを顧客用「伊藤」（同）と連 だけでなく普段にも使っ 携し「ママから生まれた てほしい」と話すのはエ タオル」シリーズを商品 ルパティオの川崎陽子社



母親の視点を生かし、使いやすさにこだわった「ママから生まれたタオル」

松山市大街道3丁目

今治タオル 特長生かし続々登場

普段使いに快適さ追求

経済 えひめ流

長38。主宰するベビー ママナーズ教室などのネ ャトワークを生かし、育 児中の女性約10人に開発 に参加してもらい、母親 100人にアンケートも 実施した。今治市のタオ ルメーカーに製造を依

ベビー向けやパット 売り上げ好調

軽メーカを訪ねて、 その声が多かったため、 完売し、ハンドタオルも 厚みや色などの検討を重 視。同店を運営するエ ンストール（1675円） イトワンの大蔵製社長 を発表し、洗濯物を干す ハンガーに収まりやすい ない発想で生まれた商 品。品」とし、色のパリエ ーティオは、色のパリエー

特に「こたわ」なのはサ イス。アンケートでは、パ スタオルは「乾きにくい」 40号四方と大きめにし、 乳児の寝違え用掛け布団や 上たれかけにも使えるよ うにした。重視したのは、 吸水性や肌触りの良さ だ。

ミニバスタオルは製造 した700枚が夏までに 今治タオルの肌触りの 「生活課題解決」の視点 を取り入れて商品化にこ ぎ着けた先達の事例」 は、タオル製品企画製造 と評す。「他の特産品で 販売の「ミニコットン」 も同様の取り組みが広が るのでは」と期待してい る。（丸岡裕美）



さくらコットンが開発した布ナプキン型のパット
—今治市旭町2丁目

菊川あすき社長（38）が市 販の布ナプキンを使った とろろ、冷えの改善など を実感したのがきっかけ だった。同様の悩みを持 つ女性が多いと知り、1 00人以上から聞き取り し、タオルの素材選びや 厚み、形、ずれ防止のた めのスナップの大きさな ど改良を重ねてきた。 1月に発売したところ 好評で、9月までに約4 千枚を売り上げた。県内 の産婦人科や薬局、首都 圏の専門店などにも販路 を広げており、菊川社長